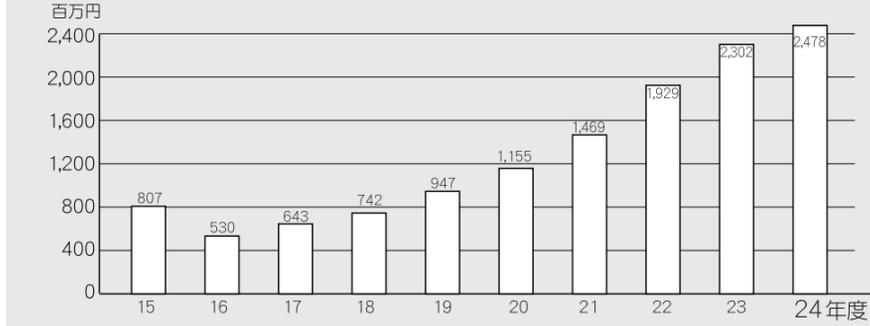


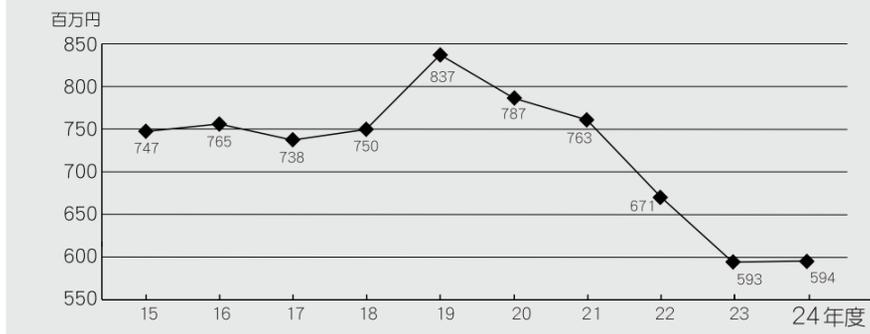
○基金(貯金)の状況

基金とはいわゆる貯金のことで、少しずつ積み立てに努め、24年度には24億7,802万円になりました。



○公債費の推移

借金の返済にあたる公債費は19年度が返済のピークで、24年度は23年度に比べ若干多くなっています。



平成24年度決算に基づく
健全化判断比率・資金不足比率

健全化判断比率

①実質赤字比率

実質赤字比率とは、一般会計等の赤字の程度を指標化し、財政運営の悪化の度合いを示すもので、24年度は実質収支額が黒字で、早期健全化基準の15%を下回っており、良好な状態を示しています。

②連結実質赤字比率

連結実質赤字比率とは、すべての会計の決算を合算し、地方公共団体全体としての赤字の程度を指標化して、財政運営の悪化の度合いを示すもので、24年度の連結実質赤字はなく、早期健全化基準の20%を下回っており、良好な状態を示しています。

③実質公債費比率

実質公債費比率とは、借入金(地方債)の返済額等の大きさを指標化し、資金繰りの程度を示すもので、

24年度は11.6%となっており、昨年度の14.0%と比較すると改善されてきています。また、早期健全化基準の25%を下回っており、良好な状態を示しています。

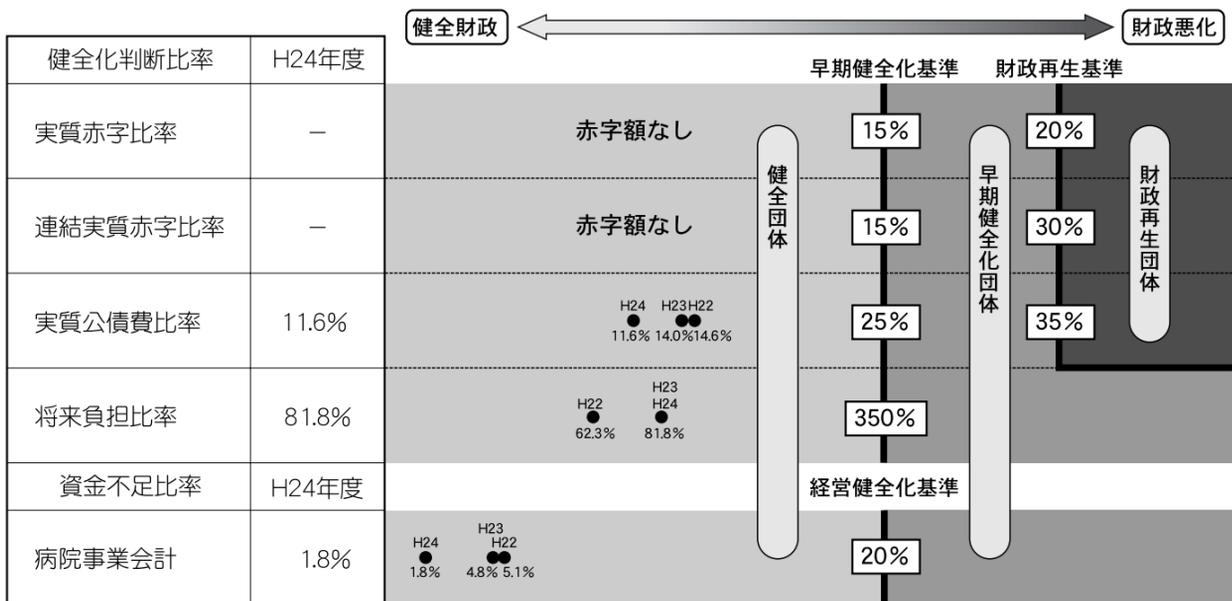
④将来負担比率

将来負担比率とは、一般会計等の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示すもので、24年度は81.8%となっており、昨年度と同様、早期健全化基準の35%を下回っており、良好な状態を示しています。

資金不足比率

資金不足比率とは、公営企業の資金不足を、事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示すもので、24年度は1.8%となっており、昨年度の4.8%と比較すると改善されてきています。

健全化判断比率及び資金不足比率の推移



●は智頭町の数値

各会計の決算

区分		歳入	歳出	歳入歳出差引額	
普通会計	一般会計	58億5,707万円	54億3,442万円	4億2,265万円	
	住宅新築資金等貸付事業特別会計	1,664万円	1,542万円	122万円	
	公共用地先行取得事業特別会計	1万円	1万円	0万円	
特別会計	国民健康保険事業特別会計	10億4,139万円	9億9,869万円	4,270万円	
	簡易水道事業特別会計	827万円	827万円	0万円	
	公共下水道事業特別会計	2億9,753万円	2億9,437万円	316万円	
	農業集落排水事業特別会計	3億9,530万円	3億9,272万円	258万円	
	介護保険事業特別会計	10億4,744万円	9億8,405万円	6,339万円	
	介護保険サービス事業特別会計	8,786万円	8,786万円	0万円	
	後期高齢者医療特別会計	8,454万円	8,445万円	9万円	
企業会計	水道事業	収益的収入及び支出	6,745万円	6,485万円	260万円
		資本的収入及び支出	0万円	6,235万円	△6,235万円
	病院事業	収益的収入及び支出	18億0,395万円	17億5,373万円	5,022万円
		資本的収入及び支出	2億4,606万円	3億8,281万円	△1億3,675万円

※水道事業の資本的収入及び支出の△6,235万円は過年度分損益勘定留保資金で補填しました。

※病院事業の資本的収入及び支出の△1億3,675万円は当年度分損益勘定留保資金で補填しました。